

中学校におけるよりよい生き方を実践する力を育む道德教育の取り組み

9月18日(木)は二宮西中学校にて校内研修会が行われました。

今年度二宮西中学校は、文部科学省から神奈川県教育委員会が委託を受けた「よりよい生き方を実践する力を育む道德教育の推進事業」に取り組んでいます。そのため、今回は中郡中学校教育研究会道德部会、二宮町小中一貫教育ワーキンググループ道德部会に所属している先生方も多く参加されました。

3年3組の担任である長岡真武先生が研究授業(主題名:みんなが幸せになるためには)を行いました。先生は導入でICT機器を活用し事前に生徒たちが入力した「秋麗祭(文化祭)に対してどんな印象があるか」の意見交換から授業を始めました。その後、先生は『しあわせ』の資料を範読しました。範読後、本授業の中心発問である「それぞれ思っていることが違う中で、みんなが幸せな秋麗祭になるには何が大切か考えよう!」を伝えました。まず、生徒たちはワークシートに自分の考えを記入しました。記入している生徒たちの姿勢には、『秋麗祭』という学校行事の在り方についてより深く考えていこうという意気込みを感じることができました。

先生は、この後の話し合い活動の司会と板書を務めてくれる人を生徒たちに募集しました。しばらくしてから立候補で2名が申し出てくれました。生徒たちは、課題を自分事としてしっかりと捉え、クラスメイトの司会進行だったこともあり、和気あいあいとした雰囲気の中、自分の考えや思いを積極的に発言していました。生徒たちは、発言者の考えをしっかりと傾聴し、話の内容を自らの考えと比較するといった協働的な学びがしっかりと実践されていました。

授業の最後に生徒たちが記述したワークシートには、「お互いを知ることが大切である。」、「誰一人としていやな思いをしないためには、協働することを通じてより良い雰囲気づくりを心掛けることが大切。」といった本時の内容項目である『相互理解・寛容』につながる記述が多く見られました。



授業後、授業者と共に研究協議を行いました。授業に参加していた生徒たちの小学校時代の担任からは、「小学校時代に比べ子どもたちが大きく成長した様子が見られた。」、「子どもたちに任せて授業を展開していたのが素晴らしかった。」といった小中一貫教育の成果がうかがえる嬉しい感想を聞くことができました。

その後、東京学芸大学永田繁雄教授からご講演をいただきました。先生から本時の授業実践について「子どもは連続的に成長し

ているのに断層的な授業を行っている教師が多くいる。しかし、今回の長岡先生の授業はそうではなく、素晴らしかった。」というお褒めの言葉をいただきました。さらに、「子どもは特活と道德の学習を分けては考えていない。合意形成を図ろうとするのは特活であり、道德は自分事として『納得解』を追求することである。」という道德教育の本質について多くのスライド28ページに及ぶ資料を活用され大変分かり易くご指導いただきました。永田先生ありがとうございました。・・・すべては「にのみや学園の子どもたち」のために・・・

感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>

